



こんにちは 府会議員

さこ祐仁 です

2007年11月11日発行 No.49

日本共産党北地区委員会

432-3261

上京生活相談所813-2117

◎さこ駆け歩き

10月27日(土)

上京区民ふれあいまつりが、きた総合支援学校グラウンドで開催されました。心配された雨も上がり、無事に開催されました。各学区のかたがたがそれぞれの催しをされていました。

昼からは、室町の職場支部の方と職場の周りの赤旗読者、元読者などに「国保署名」で訴えて回りました。

夜は、議会報告会を室町学区で行ないました。西陣の問題は、現状報告だけでなく、「染色試験場の移転の問題、フロッピーの製造をしていない問題なども、もっと金沢市などが若手の職人を育成する立場で行っていること、西陣では行政が力をいれて行えばもっと広い波及効果が起こるなど展望が持てるように話したらよかったなあ」と後から反省しています。

10月31日(火)

業者の方を訪問しましたが、「仕事がまったくない。これまでは注文が来ていなくても何とか織らせてくれていたが、今はそういうものない」「これまでは言われなかった傷があるなどといわれ、自分でかけつぎに出したりしている」「だいぶ人を減らしているのか、これまで会っていた織手さんに会わなくなった」「友禅もまったく仕事がない。京都府の言う産業21に登録したらとも聞いているが、わしらみたいな業者に仕事がくるとは思われない。業界のトップと話をして現場を知ったような気持ちになるのでなく、困っている現場を行政は見て手を打ってほしい」「景気のいいのは大企業、小さい業者はほったらかしかいな」厳しい声が多数ありました。

11月3日(土)

お昼から仁和学区の立本寺で開かれていた「第4回仁和平和まつり」が300人の参加で成功しました。各種団体の模擬店も出されており、暖かい天気の中で、みなさんとゆっくりと懇談できました。佐伯牧師のお話ご自身の子どもの時代の戦争体験を交えて「戦争と平和」についてお話されました。「自分の意思を持つことが大切です。いまは自由の時代。自由を喜ぶこととは、自由は自分を大事にし、平和をしっかりと守ることです」と語りかけると、年配の参加者は自分の子どものころを思い出してか、うなずきながら聞いておられました。

民主・小沢党首の辞任表明に、「二大政党の正体見たり！」
民主党の小沢一郎代表は4日、「(自民党との)連立政権の樹立をめぐり、政治的混乱が生じたこと」を理由に代表を辞任を表明しました。参院選で自公政治ノアの国民の審判が示され、その後、「靖国派」安倍首相辞任、テロ特措法の期限切れなど、国民の民意に沿って新しい政治の流れが強まる中でのできごとです。
そもそも、参院選で自民党を批判して躍進した民主党は、民意に

沿った行動をとるべきでした。ところが小沢代表は、アフガニスタン国際治安支援部隊への自衛隊参加提言、福田首相との二度にわたる密室会談や「大連立」構想をすすめました。これらは、国民世論にまっこうから背くもので、強い批判をあびました。小沢氏の辞意は、自ら招いた「政治的混乱」の結果だと思えます。志位委員長は記者会見で「民主党が自民党と手をくもうというのは、国民の民意を裏切るもの」「共産党は、福田政権に正面から対決し、自民党政権を大本から転換する役割をしっかりと果たす」とのべました。

さらに、6日付「赤旗」には、民主党のテロ特措法案反対に対して、アメリカから強力な圧力が加わったこと、その結果「『反米』のレッテルをはられたくない、恐怖心が働いた」ことが自民党との連立政権協議をまねいたことを詳しく特集しています。私はこの記事を読んで、自民党も民主党もアメリカいいなりという点ではまったく一緒だということ、アメリカの圧力で国民の強い要求に背を向ける「二大政党」の正体見たりの思いを強くしました。日本共産党のがんばりどきです。私も府議会



写真(上) 仁和平和まつりでの一コマ。
写真(右) 室町学区議会報告会で話す。



国民ぞうちのけの「連立政権協議」、民主・小沢党首の辞任表明は「二大政党づくり」の破たんであらわれ。日本共産党は、国民のくらし・平和を守るために、福田政権と正面から対決し、全力でがんばります。